

令和4年度 大田区立大森第四小学校 自己評価 報告書

令和5年3月6日

○ 本校の概要

昭和8年開校、今年度開校87周年目を迎える。平成26年度から校舎改築に向け基本構想・基本計画を策定。平成28年度より新校舎建設工事（第1期）開始、平成31年度新校舎（第1期）竣工、新校舎へ移転。令和2年度より第2期工事開始、令和3年10月完工。

平成24・25年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。「学び、かかわり、自己を高める子の育成」（生活科・総合的な学習の時間を通して）を研究主題とし、地域を生かした学習活動を展開し、現在もスクールサポート大四と連携を図り、継続して推進している。

平成26・27年度東京都教育委員会オリビック・パラリンピック教育推進校（研究開発校）に指定。「自己肯定感を高める指導の工夫」（「すんでかかわり、自己のよさを発揮できる子の育成」を研究主題とし、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催と関連を図った学習内容の開発について研究を推進した。令和元年度からは研究主題を「学習問題をすんで追及し解決しようとした教育、社会的な見方・考え方を育む指導の工夫」とし、生活科・社会科「問題解決学習」を通して思考力・判断力を高める指導を行い、合わせて基礎学力の向上に取り組んでいる。

令和3・4年度大田区教育委員会教育研究推進校に指定。

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄								
								評価(人数)	コメント							
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	・外国語は、ALT・専科と協力して授業を行っている。日常生活で外国語を使う場面が少ないため、「外国の方々とのコミュニケーション」という点で取り組み内容が「できた」と回答しづらいこともある。コロナ対策で密を避けるため、放課後の英語カフェの実施は当面見合わせている。 ・理科・総合的な学習の時間等、地域を生かしたもののづくりの体験活動はこれまでも行ってきた。区の教育プランに合わせて、が該当教科の内容と「ものづくり」の関連性をもとに、指導計画を見直している。 ・タブレット等ICT機器は各学級で日常的に使用しているが、授業の進度や内容等必要に合わせて活用しているため、全教員が週1回以上の使用とはならなかった。 ・今年度は、なわとびを中心とした「一校一取組」「一学級一実践」を各学年で行うこととなり、年間を通して各学年で取り組んでいる。今年度から校庭が使用できることとなり、各学年の体育で指導計画のもと、活動ができるようになった。 ・校内研究において「問題解決的な学習」に取り組み、社会科を中心として授業改善を行っている。1月の研究発表に向け、思考・判断力を育むため、日々の授業を工夫している。ただ、基礎基本となる知識の定着などの課題を踏まえた授業改善をさらに行う必要がある。	A	5	・理科、総合的な学習、社会などの教科で子供たちが興味を示すかが重要です。そのためには、牽引力が必要です。子供たちが興味をもてれば、学力は上がると思います。 ・コミュニケーション能力等、社会の変化に対応する能力は、成長していく上で、大変大切なものだと思います。今後もこの能力を伸ばすご指導をお願いします。 ・学校公開で、タブレットを使用しているのを見ました。手際よく使っていて、有効に活用していると思いました。						
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3	3:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が85%以上である。						B	3				
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	3												
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3	2:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%以上である。								C			
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	1:学校評価保護者アンケートで「子供たちは、様々な体験を通して、自ら学び、自ら考える力が身に付いてきている」と回答した保護者の割合が80%未満である。										D	
		問題解決的な学習方法により、思考・判断力を育成するための授業改善を進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3												
プラン2 児童・生徒一人ひとりの学び意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	2	4:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が95%以上である。	○	3 91.0%	A	4	・大四小は、児童自身に考えさせる授業を実施されています。授業を参観させていただいた際、子供たちが教師の問いかけに積極的に答える姿が印象的でした。 ・児童アンケートの結果では、昨年度より評価が上がっています。先生方の日々熱心に取り組まれている成果の表れだと思います。自己評価は、もう少し上げてよいのではと思い、「C」にしました。 ・補習は、学力向上に有効かと思うので、引き続きお願いします。 ・コロナ禍の中で、85%以上の児童が「毎日の勉強が分かる」と回答したことは、先生方の日々の努力の成果です。 ・オンラインでの授業は、小学生では難しいと思いました。							
	算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3	3:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が90%以上である。						B	2					
	学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	2:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%以上である。								C				
	授業改善推進プランを、授業に生かす。	3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:児童アンケートで「毎日の勉強が分かる」と回答した児童の割合が85%未満である。									D			
	大田区漢字検定・大四算数検定等を目標とした、基礎的な学力の向上を目指す指導を行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	3													
	プラン3 豊かな心の育成	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4											4:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○
道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。		4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。	B	2										
学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。		4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			C	0								
学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。		4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。 4:「必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応し	3	1:学校評価保護者アンケートで「子どもたち一人一人が大切にされ、認められる学校になっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。					D	1						
問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。		3:必要な事案に対しておおた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4													
1～6年生の異学年集団による縦割班活動を通して、思いやりや協調性など豊かな心を育てる。		4:学期に2～3回行った。 3:学期に1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	2 *1													

プラン4	進	体力の向上と健康の増	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	4:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を上回っている。	○	399.0%	・学校評価児童アンケートの「自分から進んで運動をして、健康的な生活をしている」は昨年度より約7%向上し、約96%の児童が肯定的な評価をした。特にA評価は保護者アンケートより16%以上高く、コロナウイルス対策で制約がかかる分、意識して運動していることが伺い知れる状況であった。	A	5	・早寝、早起き、朝ごはんの啓発は難しいと思います。来年度からはほぼ通常に行われるでしょうから、学校に関心をもつ家庭を増やす努力が大切であり、数字につながっていくと思います。 ・子供の頃より健康増進を図る意識をもたせることは、大変大切なことで、大人になっても、健康であることが生活していく上で重要だと思うようになります。 ・地域で見ていると、公園などで外遊びをして、体を動かしている児童が多いように思います。	
				給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	3:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均とほぼ同様である。			B	3			
				体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3	2:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を下回っている。			C				
				体力テストの結果の分析をもとに、平均を下回っている項目を授業の中に取り入れて、体力向上を目指す。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	1:東京都体力・運動能力調査の体力合計点が、都の平均を大きく下回っている。			D				
プラン5	進	魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりま	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	4:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	490.0%	・コロナウィルス感染拡大防止の観点から、4月の公開は見送った。6月、10月、2月(予定)は公開授業を行った。児童の日頃の頑張りを授業を通して、見せることができた。	A	7	・OJT研修は、大事です。総合的な学習の時間では、若い教員の発想でチャレンジすることも良いと考えます。その中で、進め方などに関して先輩がアドバイスするなどできるといいと思います。 ・90%以上が「教職員が子供たち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答したということは、先生たちの日々の努力のたまものです。今後もよろしくお願いします。	
				授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	3:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			B	1			
				各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	2:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			C				
				校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4	1:学校評価保護者アンケートで「教職員が子どもたち一人一人に熱意をもって教育にあたっている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			D				
プラン6	進	学と校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	4:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が90%以上である。	○	387.9%	・今年度は、コロナウィルス感染拡大防止の観点から、4月は見送ったが、6月、11月、2月(予定)は地域の方々々と顔を合わせて、学校のこと、児童のこと、地域のことを共有することができた。	A	5	・地域教育連絡協議会や学校だよりを通じて、学校の様子がよく分かります。また、学校長をはじめ、先生方やPTAの皆様が地域に協力的で、地域行事や防災訓練等参加、お手伝いいただくなど助けていただいています。 ・次代を担う児童やその保護者と一緒に活動できることは、地域の担い手が高齢化する中、大きな強みとなっています。 ・来年度からは、行事等ほぼ通常になるかと思っています。スクールサポート、読み聞かせ、または夏のわくわくも始まると思いますので、人員を増やすことを考えていかなければと思っています。 ・公開授業等保護者または地域の人々に学校内での児童が学習している姿を見せることは重要であり、今後もより多くの人に見せてほしいです。 ・ここ数年、学校と地域が連携した行事が行えず、残念です。次年度からは少しずつ正常化することを期待します。	
				地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3	3:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が85%以上である。			B	3			
				学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	2:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%以上である。			C				
				地域や保護者による読み聞かせ等を実施し、家庭の教育参画意欲を高める。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	3	1:学校評価保護者アンケートで「学校は、教育方針や教育活動の様子を伝える努力をしている」と回答した保護者の割合が80%未満である。			D				
プラン7	進	学と校・家庭・地域が一体となつてともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	毎日家庭で(学年×10分)の学習を推奨し、取り組む。	4:「おおむねできた」と80%以上の教員が回答した。 3:60%以上の教員が回答した。 2:40%以上の教員が回答した。 1:40%未満であった。	3		○	387.9%		A	5		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。